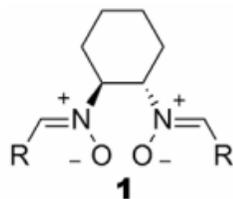


# 30TF-am10

新規 Lewis 塩基触媒ジニトロンを用いる温和な条件下での不斉アリル化反応  
○呉 英先<sup>1</sup>, 小谷 俊介<sup>2</sup>, 杉浦 正晴<sup>1</sup>, 中島 誠<sup>1</sup>(<sup>1</sup>熊本大院薬, <sup>2</sup>熊本大院先端機構)

【目的】キラルなジニトロン **1** が、対応するヒドロキシアミンと様々なアルデヒドから容易に合成でき、トリクロロシランを用いる還元的アルドール反応において有用な Lewis 塩基触媒となることをすでに報告している<sup>1)</sup>。今回は、ジニトロン **1** をアリルトリクロロシランを用いるアルデヒドの不斉アリル化反応に適用することを検討した。



【結果・考察】ジニトロン **1** [R = *p*-MeOC<sub>6</sub>H<sub>4</sub>] を触媒として、アリルトリクロロシランによるベンズアルデヒドのアリル化反応を試みたところ、反応の進行は認められたものの、得られたアリル化体の化学収率・不斉収率は極めて低かった(7%、8% ee)。しかしここに 1.5 当量の DMPU を添加すると、化学収率・不斉収率とも劇的に向上した (78%、74% ee)。さらに、3,4,5-トリメトキシベンズアルデヒドのアリル化では、アリル化体の不斉収率は 87% ee に達した。条件検討の詳細や基質の適用範囲、推定メカニズムについて報告する。

